

東大和市立第七小学校・第九小学校統合新校建設基本構想（案） の市民説明会及びパブリックコメントの結果等

1 市議会議員への説明

令和5年11月30日（木）に開催した市議会議員全員協議会において、第七小学校・第九小学校統合新校建設基本構想（案）の内容を説明。

2 市民説明会の結果

（1）第1回説明会

- ① 日 時：令和5年12月15日（金）午後7時00分～午後8時00分
- ② 場 所：東大和市立第九小学校 体育館
- ③ 参加者数：7人
- ④ 質問・要望等

	質問・要望等	市の回答
1	構想案40ページに通学路の検討とあるが、現在はどのような考えがあるのか。	今後、現地の確認等を行い、安全確保に努めたい。
2	九小に仮校舎を建設するとき、現在、各種団体が校庭を利用していると思うが、工事が始まったらまったく使えないのか。代替案はあるのか。	九小での仮校舎工事中は、校庭は使えない。代替案等については、今後検討したい。
3	一番心配なのは、環境が変わることでの子どもへの心理的な負担である。令和8年4月の学校統合の際は、七小と九小の児童が混合のクラスになるということによいのか。	学校を統合して1つの学校にするため、現在の七小と九小の児童が混合したクラスになる。
4	令和10年2学期から新校舎ということだが、1学期から2学期で担任の先生やクラスは変わらず継続ということによいのか。	担任やクラスは、変わらないことが、児童の心理面で一番大事であると考えている。今後の調整の中で配慮したい。
5	令和7年度は、七小の児童は、現在の七小で卒業できるのか。	令和7年度の卒業式は、それぞれの学校で行う。
6	新校舎開校後、現在の九小の校舎はどうなるのか。	九小の活用については、現在、未定である。
7	新校舎開校後のプールの実施場所が決まっているようであれば教えてほしい。また、夏休み期間中のプールはどうなるのか。	プールの設置場所は、今後の検討である。また、新校開設後の夏休みのプールは、学校運営に関わることから、今後、新校において検討する。

8	五小の授業で民間プールを活用したということだが、移動は休み時間中なのか授業中なのか。	授業中の移動である。
---	--	------------

(1) 第2回説明会

- ① 日 時：令和5年12月16日（土）午前10時00分～午前11時00分
- ② 場 所：東大和市立第七小学校 体育館
- ③ 参加者数：13人
- ④ 質問・要望等

	質問・要望等	市の回答
1	九小に仮校舎ができれば、仮校舎での授業は七小と九小で別々で運用するイメージでよいのか。運動会などの行事はどうなるのか。	学校を統合する予定である令和8年4月から、七小、九小という分けはなく、授業や行事は1つの学校として運用する。
2	統合後も、学童保育所は、七小と九小で別々ということか。	統合後の学童保育所機能は1つになるが、利用人数の関係から、統合時は現在の第七クラブと第九クラブを併用し、新校舎開校後は、新校舎内に整備する学童保育所と第七クラブの併用を考えている。併用時の児童の分け方（学年や住んでいる地域等）は今後の検討である。
3	通学路の検討については、見守りの人を付けるということか。	現在、有償による人の配置は予定していないが、基本構想策定後、現地の確認を行いながら、検討していきたいと考えている。
4	七小の解体工事の際は、工事車両がどこを通るとか、考えはあるのか。	工事については、様々配慮しながら、今後計画していく。
5	新校舎にプールは作らないということだが、統合後のプールの授業で使用する場所についての考えはあるのか。	今後の検討になっている。
6	現在の五小での民間プールの活用は良い方法だと思う。	
7	学校名はどうなるのか。児童の意見を取り入れて、公募で決めるのがよいのではないか。	今後の参考意見としたい。
8	地域の方も使う施設なので、防災倉庫の位置を明確にしたほうがよい。	平面計画イメージ上、屋内運動場の近くに防災倉庫を配置する予定。

9	七小と九小で昔からホタルとサンショウウオを飼育しているので、新校舎の中には両方を統合した飼育施設を作ってほしい。	平面計画イメージ上、校舎1階にホタル・サンショウウオの部屋を配置する予定。
10	七小のビオトープを復活させてほしい。	平面計画イメージ上、校舎北側にビオトープを配置する予定。
11	学童保育所等を複合化することだが、高齢者や幼児など、地域の人が気軽に集まれる場所を設けてほしい。	新校舎は、学童保育所と集会所機能を複合化し、地域の方が集える場所として整備する。
12	七小から川を挟んだところにある七森など、自然環境の整備も並行して進めてほしい。	今後検討したい。
13	学童保育所を複合化することだが、学童への送迎のための路上駐車等について、解決策の検討を要望する。	今後検討したい。
14	何かあった時の電源を確保するため、体育館の屋上等にソーラーパネルの設置を検討してほしい。	今後検討したい。

3 パブリックコメントの結果

(1) 提出した市民等の人数及び提出された意見の数

3人及び1法人 17件

(2) 意見の提出期間

令和5年12月6日(水)から令和6年1月5日(金)まで

(3) 提出された意見及び市の考え方

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
1	1	基本構想(案)37ページ2階平面イメージで西側にある校舎の普通教室1~6では黒板はどういう向きになるのでしょうか。窓側や廊下側にはこないとする、普通教室1~3は北側、普通教室4~6は南側に黒板がくると考えると、窓から入る	基本構想(案)は、施設整備に向けた基本的な考え方を示すもので、具体的な黒板の配置や向きにつきましては、今後、基本構想に基づき建物の設計を進めていく中で、最適な環境を検討してまいります。 また、新校舎の照明につきまして

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
		<p>光で手元が影にならないと思います。もしくはLED照明で自然採光に頼らない教室仕様とする想定でしょうか。</p>	<p>は、省エネルギーの観点から、原則、すべての照明についてLEDを採用することとしております。また、自然採光を取り入れた建物とすることも検討します。</p>
2		<p>基本構想(案)36,37ページ 2階にある職員室などの管理諸室は保健室と同一階の1階の方が連携が取りやすいのではないかと感じました。1階に用がある来校者は2階に行き、また1階に降りることになるかと。小学校は校庭でよく遊ぶイメージなので、校庭で何か起きたときを想定し、迅速に対応できるようにするとよいのではないかと思います。また、車椅子での来校者の動線も考えると1階中央ピロティから入るのが車椅子用の駐車場からの距離を考えると適当だと思えます。またその際、エレベーターまでが体育館寄りです遠いように感じます。車椅子利用の児童も今後いるのではないかと思いますので昇降口寄りの方が良いと思えます。</p>	<p>東大和市立第七小学校・第九小学校統合検討会議において、特別支援関係諸室は1階に配置することが望ましいとの結論に達しました。そのことから、管理諸室は2階を中心に配置しております。また、来校者については、現在の第九小学校と同様に、外階段から直接2階に行くことができる動線を確保しており、職員室を建物の中心(2階)に配置することで、校庭を広く見守ることが可能となります。</p> <p>なお、エレベーターの位置につきましては、L字型校舎において西側の校舎からもアクセスしやすい位置としております。</p>
3		<p>基本構想(案)37ページ 特別教室と図書室の配置についてです。給排水設備が必要な家庭科室、図工室、理科室は同じ階にしたほうが工事がしやすいのではないかと思います。また図書室はメディアセンターという名前からも情報機器も設置や保管されると予想されます。そのため、給排水を伴う特別教室の上に配置した方が漏水などのリスクは避けられるのではと思いました。</p>	<p>具体的な建物の構造につきましては、今後、基本構想に基づき設計を進めてまいります。今後、基本構想に基づき建物の設計を進めていく中で、検討してまいります。</p>

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
	4	<p>新しい学校にあつたらいいなど思う場所のアンケートでは、遊具のある遊び場が 34.5%となっていますが、これからの学校には鉄棒、登り棒などの最低限の遊具があれば十分だと思っています。低学年の児童には申し訳ありませんが、保育園や幼稚園にあるような滑り台、ブランコ、築山などは小学校には不要と考えています。使用頻度の割に劣化も激しい屋外遊具は管理維持コストの面で削減した方がよいと思います。昔は学校も公園のように利用されていましたが、不審者対応など様々なリスクが増えてきて学校も管理が難しいと思います。屋外遊具を減らす分、一輪車や竹馬といったモノを増やすといいと思います。</p>	<p>遊具等の設置につきましては、ご意見にありますとおり、維持管理コスト等も考慮して検討していく必要があるものと認識しております。</p> <p>具体的な遊具等の設置につきましては、今後、基本構想に基づき建物の設計を進めていく中で、検討してまいります。</p>
2	1	<p>新校の平面計画を拝見したところ、学童保育所や集会室などの施設や学校への入口(門)が、平面図の左下にあります。駐車場を利用する場合、駐車後に職員・来校者の門から出て、再び学童保育所・集会室利用者の門から入るようにしたとしても、おそらく学童保育所・集会室利用者の門ではなく、そのまま学校内をビオトープ方面か校庭方面から行く方が多くなると思います。</p> <p>また、学校のない日(土曜や日曜、祝祭日、春夏冬の長期休み)にも集会室は利用されることになると思いますので、駐車場は学童保育所や集会室の施設に近い方がよいと思います。</p> <p>です。学童保育所や集会室の</p>	<p>基本構想(案)では、安全上の観点から、児童の動線と車の動線を分ける計画としております。現在の第七小学校と同様に、東側の門と西側の門から児童が登下校をすることとし、北側の門は車の出入口や教職員・来校者の出入口としております。</p> <p>このことから、駐車場は北側のみの配置を計画しております。</p> <p>駐車場の増設等は、今後、基本構想に基づき建物の設計を進めていく中で、検討してまいります。</p>

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
		施設付近に駐車場を増やすか、駐車場、学童保育所や集会室施設の位置変更を検討していただけないでしょうか。	
3	1	今後も学校統合が予定されているので市民に周知させる時間を充分に取ってください。今のやり方では、余りにも周知が不足！！形だけのパブコメで終わる。	ご意見を踏まえ、適宜、市報、市公式ホームページ、SNS、説明会等で周知してまいります。
	2	建屋を4Fにして防災拠点とする。	新校舎は、建築基準法上の日影規制の関係等から、3階建ての計画としております。
	3	屋上の有効活用。ソーラーパネルだけでなく、温水器と給水槽の設置。	今後、基本構想に基づき建物の設計を進めていく中で、検討してまいります。
	4	自然環境の整備。ビオトープを計画より大きくする。七小と空堀川、七森を一体化した学校。	ビオトープの設置につきましては、維持管理等も含め、今後、基本構想に基づき建物の設計を進めていく中で、検討してまいります。 また、周辺の自然環境との一体的な整備につきましては、庁内で情報共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。
	5	学童ルームに放課後教室の併設。	新校舎には、学童保育所を複合化するとともに、校舎内には、放課後子ども教室用の諸室を設置する計画としております。
	6	グラウンドの芝生化。	グラウンドの芝生化につきましては、整備や管理面で財政負担を伴うことから、現時点では予定しておりません。
	7	プール廃止に伴う水泳教室の質向上。近隣プールへの移動時の安全確保と補助員の確保。	新校舎では、プールは建設しない計画としております。 新しい学校におけるプールの運用につきましては、近隣校のプールの

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
			<p>共同利用や民間プールを利用することとしております。移動時の安全の確保等に十分配慮して実施してまいりますので、その旨を構想案 40 ページの 8 の (1) に追加します。</p>
	8	<p>九小の有効活用。建物は残して市民が自由に使える施設とする。</p> <p>① 防災拠点化。</p> <p>② 幼保老の複合施設を 1 F に作る。</p> <p>③ 2 F 以上に学童、中高生、青年、市民のための施設を作る。</p> <p>④ スポーツクラブの設置：体育館、プールの活用。</p> <p>⑤ グラウンドの芝生化。</p> <p>⑥ グラウンド周辺にビオトープ設置。</p> <p>⑦ 工作、物造りの施設設置。</p>	<p>新校舎建設後の第九小学校につきましては、現時点での活用は未定であります。今後、時期を捉え、有効な活用方法について、検討してまいります。</p> <p>ご意見につきましては、庁内で情報共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
4	1	<p>基本構想（案）24 ページ 「(a) 新しい学校建設のコンセプトに即した学校整備」の表中のコンセプト「4 防災拠点としての学校づくり」の整備内容等に、以下のとおり下線部を追記。</p> <p>バリアフリー化、多機能トイレ、防災備蓄倉庫の設置、浸水対策、<u>エネルギーの確保等</u></p> <p>(理由)</p> <p>地域住民にとっても防災上重要な拠点となる新校整備では、災害時における業務継続機能を強化し災害に強いまちづくりを推進するうえでも、避難された市民の方や働く職員が安全で安心かつ平常時の日常生活に近い環境を提供すること</p>	<p>市におきましても、エネルギー確保の視点や災害時の重要性については認識しており、構想案の 27 ページに電源の多重化を検討する旨記載しております。</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、「エネルギー確保対策」を追加します。</p>

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
		<p>が重要です。</p> <p>『東大和市地域防災計画』（令和2年3月修正）では、「第2部施策ごとの具体的計画（災害予防・応急・復旧計画）」、予防対策7項目の中で「7 エネルギーの確保：市は、公共施設や拠点施設の機能を維持するための自立・分散型電源の整備等により電力を確保し、都市機能の維持に向けたエネルギーの確保を推進する。」(P. II-4-13)との記述があり、エネルギー確保の重要性について示されております。</p>	
	2	<p>基本構想（案）27 ページ</p> <p>「(b) 整備内容」の「③ライフラインの途絶等に対応した建築設備の機能確保」に、以下のとおり下線部を修正・追記等。</p> <p><u>電力</u>インフラ途絶時の非常用電源を確保するため、非常用発電機や太陽光発電設備の活用<u>太陽光発電設備や停電対応型設備の活用、非常用発電機</u>等、複数の対策による電源の多重化を検討します。</p> <p>（理由）</p> <p>学校施設は子どもたちの成長の場であるとともに、災害時には地域防災拠点としての役割を担う重要な公共施設です。非常時には避難された市民の命を守る、安全・安心かつ平時の日常生活に近い環境（電源確保・空調環境・食事環境等）を提供することが重要です。</p> <p>災害による大規模停電発生時の避</p>	<p>ここで使用している「インフラ」は、電力のほか、給排水設備についても対象としております。</p> <p>また、非常用電源を確保するためにどのような設備を導入するかにつきましては、今後、基本構想に基づき建物の設計を進めていく中で、検討してまいります。</p> <p>なお、構想案24ページに「エネルギー確保対策」の文言を追加することから、「電源の多重化を検討します」を「電源の多重化等のエネルギー確保対策を検討します」に変更します。</p>

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
		<p>難所等の災害対応拠点の機能確保と、72時間を超える長期の停電に対する備えとして、太陽光発電設備の導入も有効ですが、気象等の条件に影響されることから、再生可能エネルギーとの親和性が高いコージェネレーションシステム（※1）や停電対応型GHP（※2）等の導入促進を図り、レジリエンス性を高めることも重要と考えます。</p> <p>また、防災・減災対策との横断的連携により推進する施策については、フェーズフリー（※3）の考え方を含む多角的な視点から検討するなど柔軟な考えを取り入れていく必要があります。GHPのエネルギー源である都市ガスの強靱性について、以下の通りご紹介いたします。</p> <p>※1 <CGS（コージェネレーションシステム）> ガスコージェネレーションシステムは、都市ガスを燃料としてエンジン、タービン、燃料電池などで発電し、この時に生じる熱エネルギーも蒸気や温水に変えて利用する、総合エネルギー効率の高いシステムです。さらには「系統電力への供給電源」という分散型電源として、また、変動型再生可能エネルギー拡大時の電力需給調整力としての社会的役割が期待されています。（日本ガス協会 HPより）</p> <p>※2 <GHP（ガス・エンジン・ヒートポンプ）></p>	

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
		<p>ガス・エンジン・ヒートポンプは、室外機のコンプレッサをガスエンジンで駆動し、ヒートポンプによって冷暖房を行う空調システムです。暖房時は、エンジンを動かすために使用したガスの排熱も利用するため、霜取り運転をする必要がほぼなく、電気式（EHP）よりもパワフルでスピーディーな暖房を実現、総消費電力は、電気式（EHP）と比べ約 100 分の 1 以下と 100W 程度まで低減できる機種もあります。そのため契約電力を 50kW 未満に抑えることも可能で、受変電設備が不要となるなど、大幅な経費削減が図れます（日本冷凍空調学会 HP GHP の特長より抜粋）</p> <p>※3 <フェーズフリー> フェーズフリーとは、身のまわりにあるモノやサービスを、平常時はもちろん、非常時にも役立てることができるという考え方。（一般社団法人フェーズフリー協会HPより）</p>	
	3	<p>基本構想（案）32 ページ 「(6) コスト削減に向けた方策等」の 3 つ目の●に、以下のとおり下線部を追記。</p> <p>新しい学校における設備の整備に当たっては、安全性、信頼性が高く、機器更新やメンテナンスが容易な設備を検討する。空調設備は、諸室の構造等を踏まえ、ランニングコストの低減に配慮した高効率で省エネ性の高い機器の採用を検討する。</p>	<p>新しい学校における設備の整備につきましては、高効率で省エネ性能の高い機器も含め、ランニングコストの低減に配慮した機器の採用を検討してまいります。</p>

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
		<p>(理由)</p> <p>学校施設のエネルギーにかかる費用は、電力が費用の約6割、その中でも照明・空調設備が6割近くを占めています。(東京都省エネルギー診断の結果より) この結果から、空調設備を中心に省エネルギー対策を推進していくことは、コスト削減効果にも繋がるといえます。</p> <p>電気の基本料金は過去1年間の最大需要電力(デマンド)により決まるので、電気空調の場合は夏場のピーク電力が大きくなるため電力の契約基本料金が高くなってしまいます。ガス空調(GHP)を導入することで電気の基本料金をカットすることができ、トータルでのランニングコスト削減につながります。</p> <p>また、都市ガスの高圧・中圧導管は高い耐震性が各地で報告されており、東日本大震災においても被害がありませんでした。低圧ガス導管も、その多くは耐震性を備えるポリエチレン管に代替するなど、継続的な耐震性向上の取り組みが行われており、実績として近年の地震対応では復旧期間もかなり短縮されています。ガス導管は地中に埋設されているため風水害に強く、令和元年9月に発生した台風15号では、関東地方に上陸したものとして観測史上最強クラスの勢力で千葉県を中心に多くの方が甚大な被害を受けましたがガス供給は継続していたため千葉県内の停電エリアに設置されていた停電時発電継続機能付きエネファームが</p>	

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
		<p>自立発電し、給湯として利用されただけではなく生活環境の維持に大きく貢献しました。</p> <p>自然災害に強い都市ガス設備は、市民生活の基盤である社会インフラとして地域価値の向上にも貢献しています。</p>	
	4	<p>基本構想（案）41 ページ 「(6) 環境に配慮した整備」に、以下のとおり下線部を追記。</p> <p>新しい学校は、東大和市公共建築物環境配慮整備方針(令和4年10月)に基づき、太陽の光や自然の風を取り入れるなどの自然エネルギーの<u>活用や建物の断熱性能向上等の要素と、高効率エネルギー設備や利用等による省エネルギー性能、</u>太陽光発電等の再生可能エネルギー<u>設備の要素をともに取り入れることで、環境に配慮した性能を備えた</u>建築物とするため、検討を進めます。</p> <p>(理由) 太陽の光や自然の風を取り入れるなどの自然エネルギーの利用等による省エネルギー性能(=パッシブデザイン)の導入と共に、安定的に省エネ性を補う設備・システムの高効率化技術であるアクティブデザインの検討が必要不可欠です。風水害等天候不良時の再生可能エネルギーのデメリット補完として、親和性の高いCGS・停電対応型GHP導入を提案します。脱炭素社会を実現するためには、様々な環境負荷低減の取り組</p>	<p>市におきましても、省エネルギー化の重要性は認識しており、構想案において、エネルギー消費量やCO2排出量の削減に取り組んだ施設整備を目指しております。</p> <p>ご意見につきましては、趣旨と合致していると考えております。</p>

提出者	番号	提出された意見	市の考え方
		みや配慮が必要であり、建物のエネルギー消費性能の向上に加え、エネルギー効率の高い機器の採用による省エネルギー化は極めて重要になります。	